

1. 第2回石本基金出版助成 公募開始のお知らせ
2. 2008年度 石本基金若手研究助成 結果報告

1. 第2回石本基金出版助成 公募開始のお知らせ

昨年冬に行った第1回公募に続き、石本基金出版助成第2回公募を今夏開始いたします。

この事業は、広義の科学哲学分野の堅実な基礎研究の発展に資するべく、この分野の研究への有意義な貢献をなし、研究水準を高めると評価しうる著作の出版助成を行うことを趣旨とします。特に、商業的な出版ルートに乗りにくくとも学術的に資するところの多い著作を優先して刊行します。

応募条件は以下のようになります。

1. 助成の対象は会員に限る。
2. 石本氏の研究領域も勘案しつつ、「科学哲学および関連諸領域に関する研究の推進」（本会会則第3条「本会の目的」）に資する、著作であること。
3. 内容的な水準はいわゆる論文博士程度。扱われている主題に通暁している専門家により、ほぼこのレベルに達していると判断されるもの。
4. 助成金額は原則として各年度1件、100万～200万円程度。
5. 刊行が決定した著作については石本基金の出版助成を受けた旨を明記する。[文部科学省、学術振興会等の出版助成が得られた場合には、石本基金からの出版助成を辞退する。また初版一刷の印税は基金に還元する。]

第2回公募期間は2008年6月20日～2008年7月20日です。

出版助成申請書および原稿作成要領は、ホームページに掲載しておりますので、申請書末尾の記入要領と原稿作成上の注意をよくお読みいただき、必要な提出物を全て揃えた上でご応募くださるようお願いいたします。

2. 2008年度 石本基金若手研究助成 結果報告

若手研究助成審査委員長 岡本賢吾

2008年度の「石本基金 若手研究助成」審査結果は以下のようになりましたのでご報告いたします。

審査員 岡本賢吾（審査委員長） 金子洋之 出口康夫 戸田山和久

採用者及び研究題目 全4件の応募があり、3件を採用、1件を次点とした。

吉満昭宏「関連論理の自然な意味論」

小山 虎「様相実在論に対するメタ存在論研究に基づく反論とその射程」

櫻木 新「記憶と正当化」

次点

佐藤邦政「アスペクトの知覚とは何か——教育、行為、アスペクト盲の私、あなた（汝）あるいは他者の中の私——」

助成金額 1名につき35万円（期間2008年4月1日～2010年3月31日）

審査経過

吉満氏の研究計画は昨年と同様、関連論理の自然な意味論を与えることを目的とするものであるが、今回は特に可能世界意味論に代えて「動的意味論」の立場をとるということが前面に打ち出され、弱い関連論理の意味論から始め、そこでのモデルの制約を除々に強めることで自然な形で強い体系へと拡張していくことを提案しているなど、計画の具体性が大きく進捗していることが高く評価された。

小山氏の研究計画は、D.Lewis以来の様相实在論を批判しながら「メタ存在論」の観点から独自の様相の形而上学を確立することを目的としている。従来の「様相实在論 vs 現実主義」という不毛な二分法を乗り越えることを目指し、とりわけ可能世界の「還元先」として構文論的な論理的帰結の概念に訴えるというSiderらの提案を一層具体性のある形に発展させようとしている姿勢が高く評価された。

櫻木氏の研究計画は、記憶によって保持されている命題的な知識の正当性をどう説明するかという問題に取り組むものであり、まずこの問題のユニークさと、この問題についてのすでに数年間にわたる申請者の熱心な研究の蓄積が評価された。さらにその際、申請者が基礎に据える外在主義的なMemory Trace理論は認識論全般に拡張する見込みを持つ重要なものであること、記憶された知識の正当化の問題は合理性との関連という大きな射程を持つことも、審査員の共感を得た。

佐藤氏の研究計画は、ウィトゲンシュタインのアスペクト論の解釈を中心としながら、より広範に行為、他者、学習といった一般的な概念の解明を目的とするものである。アスペクト論はすでに多くの解釈者に取り上げられながらも十分な展開をとげてきたとは言えず、新たな観点や理論を導入することがぜひとも要求されると考えられるが、この点から見たとき今回の案は、十分な見通しがあるとは考えにくいという批判が寄せられた。しかし他方で、立方体の知覚の例をはじめイヌイトの雪概念などに言及しながら、自分自身の言葉でアスペクト論の重要性と射程を詳しく熱意を持って説明している点では、さらに磨きをかければ充実した計画案に発展することが期待できると評価された。

以上の通り、採用された3件は、それぞれの分野の現在の研究水準に照らして十分独創的で質の高いものと評価できる。また残りの1点も次点としての評価には十分値すると考えられる。

* 2009年度の若手研究助成募集について

来年度の若手研究助成公募受付は、2008年12月1日～2008年12月20日を予定しています。応募用紙は11月中旬に公開予定です。

〒192-0397 首都大学東京大学院 人文科学研究科 哲学教室内
日本科学哲学会事務局
fax. 042-677-2073（「日本科学哲学会」宛であることを明記して下さい。）
e-mail. philsci@comp.metro-u.ac.jp
URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/index.html>